

調布市舗装維持管理計画【概要版】

1. 計画の概要

□策定の目的・位置づけ

・市が管理する道路の舗装について、効率的かつ効果的で最適な維持管理方法を定め、健全性の維持とライフサイクルコスト削減を実現するために、舗装の維持管理計画を策定するものです。

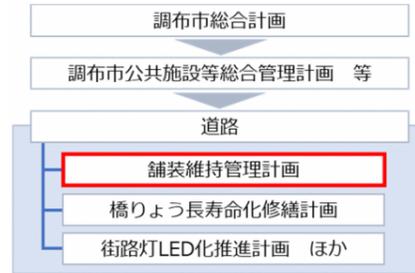


図1 計画の位置づけ

□計画期間

・2022年度（令和4年度）～2031年度（令和13年度）の10年間にわたる短期的な取組と、長期的な視点でメンテナンスサイクルやライフサイクルコスト等の検討を行い、50年間の方向性を示します。

□計画の対象

・令和元年度に路面性状調査を実施した368km（主要市道46.5km，一般市道（親番）193.2km，一般市道（枝番）128.3km）の路線を計画対象とします。

2. 主要市道・一般市道の管理方針

□基本方針

- 方針1：明確な管理目標，基準設定による適正なサービスの提供
- 方針2：日常の点検等による損傷の発見と定期的な点検による舗装状態の把握
- 方針3：道路種別に応じた効率的な維持管理の実施
- 方針4：メンテナンスサイクルの構築と継続的改善

□管理区分・管理基準

・管理指標は「わだち掘れ量」より早く進行する傾向にある「ひび割れ率」とし、管理水準は路線の重要度に応じて、主要市道は40%，一般市道（親番）は60%とします。

□管理手法・管理シナリオ

・主要市道と一般市道（親番）は、定期点検を実施して、調査結果に基づく計画的な修繕を行う「予防保全型管理」とします。

表2 管理手法と管理シナリオ

管理手法	管理区分	管理手法の説明	管理シナリオ
計画的時間管理	予防保全（標準）	主要市道 舗装の経年変化を把握し、損傷が進んだ段階で修繕を実施するなど、舗装状態を良好に確保した上で長寿命化を図る管理手法。 ※ひび割れ率 40%	
	予防保全（低水準）	一般市道（親番） 舗装の状態を把握し、舗装機能の限界水準を下回る前の段階（目標とする管理水準）で修繕を実施する管理手法。 ※ひび割れ率 60%	
事後保全（観察型）	一般市道（枝番）	舗装機能の限界水準を下回り、構造的破壊やサービス限界に至った状態を確認した場合に修繕する管理手法。	・道路パトロールや利用者からの通報により状態を確認して修繕等の対応を行う。

※舗装構造に関する技術的基準によると、舗装の耐用年数は一般的に20年を目安として設定されています。

3. 維持管理計画

□管理水準を超過する区間全てを修繕した場合の50年間の試算結果

今後50年間の維持管理費用をシミュレーションした結果、従来型の管理から、適正な管理水準に基づく計画的な管理に移行した場合、約115億円縮減と事業費平準化が可能となると試算されました。また、計画的な管理においては、管理水準に到達するまでの間に維持対策を実施することによって、修繕周期が延びることが想定されます。このため、修繕周期は今後データが揃った段階で、シミュレーションを行い、精度を高めることで更なる費用削減に取り組みます。

※シミュレーション結果は、令和元年度の路面性状調査を基に、想定した劣化式より算出しているため、実態と異なる場合があります。



図2 50年間の舗装維持管理費用シミュレーション結果

維持管理費用：定期点検費用、詳細調査費用、測量設計費用、修繕費用、維持費用の合計

□短期計画

本計画では、今後10年間のうちにひび割れ率の超過が予想される区間についても、合わせて工事計画を取りまとめました。工事が必要な場所の集中度合いから、「一連工事区間」「個別工事区間」を分けて設定し、一連工事は年間1,000mまで、個別工事は年間予算額に到達するまでを上限に、工事区間を設定しました。また、これらの工事は舗装のひび割れ率や路線の重要度に応じて修繕時期を調整し、10年間で維持管理費用を平準化しました。

定期点検費用、詳細調査費用、測量設計費用、修繕費用、維持費用を合わせた、短期的な視点による舗装の維持管理費用は、10年間で約27億円となります。

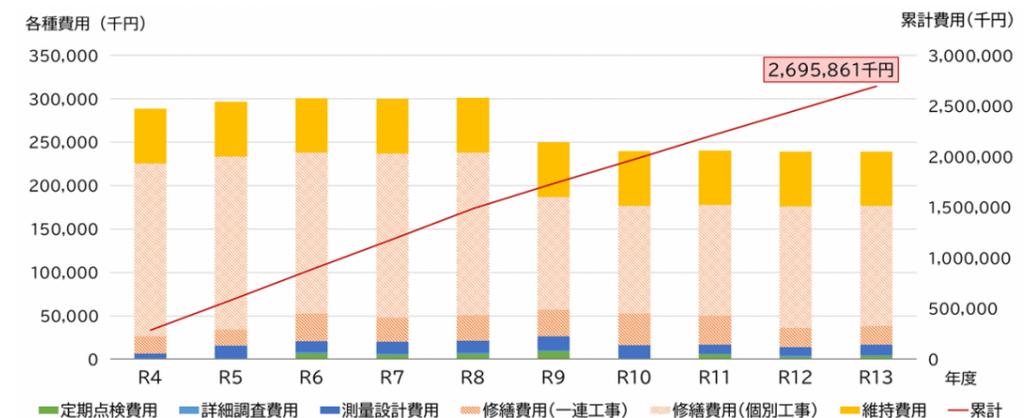


図3 10年間の舗装維持管理費用